

講演

七月九日、環境計量証明部会の年会において、OFFICE TAMAKI 代表の玉置講師をお迎えし、講演 「生成 AI を用いた業務効率化」 が開催されました。今後の業務効率化に直結する内容に、参加者は強い関心を寄せ、熱心に耳を傾けていました。

講習はまず「目的・目標・問題・課題・対応策」という整理から始まりました。目的とは「何のために、誰のためにそれをやるのか＝ゴール」、目標は「目的を果たすために目指すべき姿」、問題は「あるべき姿と現状のギャップ」、課題は「そのギャップを埋めるために必要なこと」、そして対応策は「課題を解決するための具体的な手段」と説明されました。そのうえで、こうした“手段”のひとつとして生成 AI が有効であると位置づけられました。

続いて「生成 AI とは何か」というテーマに移り、膨大なデータをもとに文章や画像を自動生成する技術であることが解説されました。生成 AI の仕組みやできること、始め方や基本的な使い方が紹介され、参加者は自分の業務にどのように応用できるかイメージを膨らませていました。

実務での活用例として玉置講師は、ご自身が日常的に行っている利用方法を紹介されました。例えば、社内外へのメール文面の下書き作成では、AI に条件を指示することで候補文が瞬時に提示され、短時間でわかりやすい文章を作成できます。また、プレゼン資料の構成を考える際にも、AI に要点を整理させることで効率的に骨子を作り上げられるとのことでした。

一方で、生成 AI の利用には注意点もあると指摘されました。AI が生成した文章は一見正確に見えても誤情報を含む場合があるため、必ず人の目で確認することが重要です。また、機密情報をそのまま入力することは情報漏洩のリスクにつながるため厳禁であり、利用環境や入力内容には細心の注意を払う必要があると強調されました。

さらに、生成 AI をより効果的に活用するためには「プロンプト（指示文）」の工夫が欠かせないと説明がありました。「〇〇を三つのポイントに整理して」「△△を分かりやすく説明して」など、具体的で明確な指示を与えることで精度の高い回答が得られることが、実演を交えて示されました。

今回の講習は、単なる技術紹介にとどまらず、「自分たちの業務の目的・目標を意識しながら、その実現のために生成 AI をどう活用するか」という視点を考えるきっかけとなり

ました。

（感想）今回の記事作成では、さっそく生成 AI を活用しました。その結果、約三十分という短時間で記事を完成させることができました。生成 AI は、今後私たちの業務の進め方を大きく変える可能性を秘めています。

人口減少や労働力不足が深刻化する中、生成 AI の活用は、こうした社会課題の解決に向けた重要な手段となると感じます。業務の自動化や効率化によって人手不足を補うだけでなく、知識労働の支援や創造的な作業の促進にも貢献できると考えられます。

玉置講師、事業活動における生産性向上に繋がる有意義な講演ありがとうございました。

記事（一財）淳風会 山下 庸介